

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 1 2 年 3 月 調査結果 —

(平成 1 2 年 4 月 3 日)

○調査期間：平成 1 2 年 3 月 2 1 日～2 7 日

○調査対象：全国の 3 9 4 商工会議所が 2 6 5 5 業種組合等にヒアリング  
(内訳) 建設業 3 9 0 製造業 6 5 0 卸売業 2 4 3  
小売業 7 6 3 サービス業 6 0 9

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$D I = ( \text{増加・好転などの回答割合} ) - ( \text{減少・悪化などの回答割合} )$   
業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6、7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

## 【平成12年3月調査結果のポイント】

### 業況DIのマイナス幅7.2ポイント縮小。景況感に底固めの動き

- 3月の景況をみると、業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）のマイナス幅は、すべての業種において前月水準に比べて縮小し、全産業合計の業況DIは前月水準（▲42.8）よりマイナス幅が7.2ポイント縮小して▲35.6となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から108ヶ月、また平成3年9月から103ヶ月連続してマイナス2桁水準となっている。昨年4月以来DI値の水準は▲40ポイント台で一進一退の動きを続けてきたが、3月は大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）となった。各業種では消費や設備投資の動向に依然停滞基調が続き、厳しい業況を訴える声は引き続き多いが、業況の好転や先行きへの期待感を指摘する声も増加しており、足元の景気は引き続き低迷を続ける中でも、中小企業の景況感に底固めの動きがみられる。

建設業では、受注量減少との声のほか、「請負件数は増えているが、細々とした仕事ばかりで単価は安い」、「工事量の増加はあるが採算は厳しい」など採算面の厳しさも指摘されている。その一方「住宅着工は引き続き堅調に推移しており、また、企業の設備投資は下げ止まりをみせるなど業界全体の景気は緩やかに回復基調」、「前年同月比売上増。年度末という特殊な状況にあったものの最悪期は脱した」といった声も寄せられている。製造業では、「猛暑が予想されており、エアコン関連製品の受注が好調」（鉄素形材）、「少しずつではあるが受注は上向き」（電子部品）、「今年に入って対前年比受注が増加傾向に入っている」（繊維機械）など受注増加の声が徐々に増えている。ただし、採算面は「売上は増加傾向に転じたが採算は厳しい」（食品）、「若干だが受注増が見られ操業度もアップしてきているが、収益は低単価のためなかなか良くなる」（金属加工機械）など低単価による厳しさの指摘も多い。卸売業では、「卸売業全体が厳しい状況にあり、個人消費の回復がない限り先行きの見通しは暗い」（衣服・日用品）や「小売業界の価格競争激化の影響を受け採算面も悪化傾向」（食料・飲料）など厳しい業況を訴える声が多いものの、一部には「依然として消費者の低価格指向が続いているが少しは明るさが戻ってきた感じ」（繊維品）との見方もある。小売業では、客数の減少や客単価の下落など消費低迷の指摘が多く寄せられており、先行きについても「企業の業績回復が遅れ、春闘も3年連続して低迷しており今後に期待が持てない」（大型店）との見方が寄せられている。その一方で「売上高は前年を下回ったが、基調は月を追うごとに改善傾向を示す」（大型店）、「製造業が上向いてきているので、その影響が消費の方にも出てくることを期待」（大型店）といった声も寄せられている。サービス業では、「長期不況により来客数の減少、購買単価の下落と厳しい状況が続いている」（飲食）といったコメントが引き続き多いが、一部からは「底打ち感があって好転の兆しあり」（飲食）、「ゴールデンウィークの曜日の並びが良く期待したい」（旅館）との声も寄せられている。

売上面では全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小して、全業種合計の売上DIは▲32.9となった。採算面では卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小し全業種合計の採算DIは▲37.4となった。

- 向こう3ヶ月（4月～6月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲24.6と現状より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、新年度の公共工事、個人消費、民間設備投資の動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

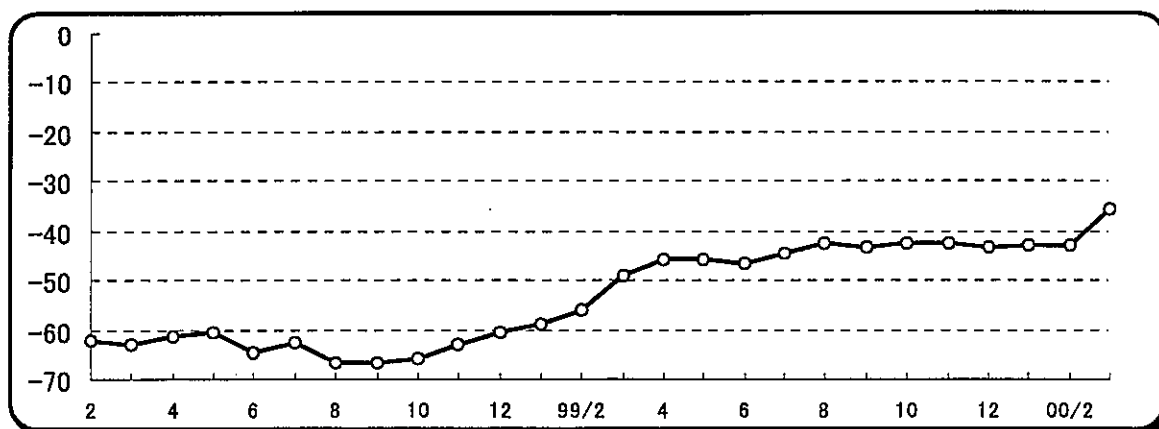
- 業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）のマイナス幅は、すべての業種において前月水準に比べて縮小し、全産業合計の業況D Iは前月水準（▲42.8）よりマイナス幅が7.2ポイント縮小して▲35.6となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から108ヶ月、また平成3年9月から103ヶ月連続してマイナス2桁水準となっている。昨年4月以来D I値の水準は▲40ポイント台で一進一退の動きを続けてきたが、3月は大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）となった。各業種では消費や設備投資の動向に依然停滞基調が続き、厳しい業況を訴える声は引き続き多いが、業況の好転や先行きへの期待感を指摘する声も増加しており、足元の景気は引き続き低迷を続ける中でも、中小企業の景況感に底固めの動きがみられる。
- 向こう3ヶ月（4月～6月）の先行き見通しは、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲24.6と現状より好転するとの見方となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	11年		12年				先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	▲42.7	▲42.7	▲43.4	▲43.1	▲42.8	▲35.6	▲24.6 (▲32.4)
建設	▲43.6	▲43.5	▲43.1	▲43.9	▲42.9	▲38.7	▲38.4 (▲35.2)
製造	▲38.2	▲37.3	▲34.6	▲33.2	▲32.1	▲26.6	▲17.7 (▲34.6)
卸売	▲39.3	▲42.8	▲39.8	▲36.5	▲45.0	▲40.0	▲26.0 (▲23.9)
小売	▲50.7	▲50.0	▲53.7	▲52.2	▲51.6	▲41.4	▲28.0 (▲30.5)
サービス	▲38.7	▲38.7	▲41.8	▲44.7	▲42.9	▲34.4	▲17.9 (▲34.1)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヶ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年3月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



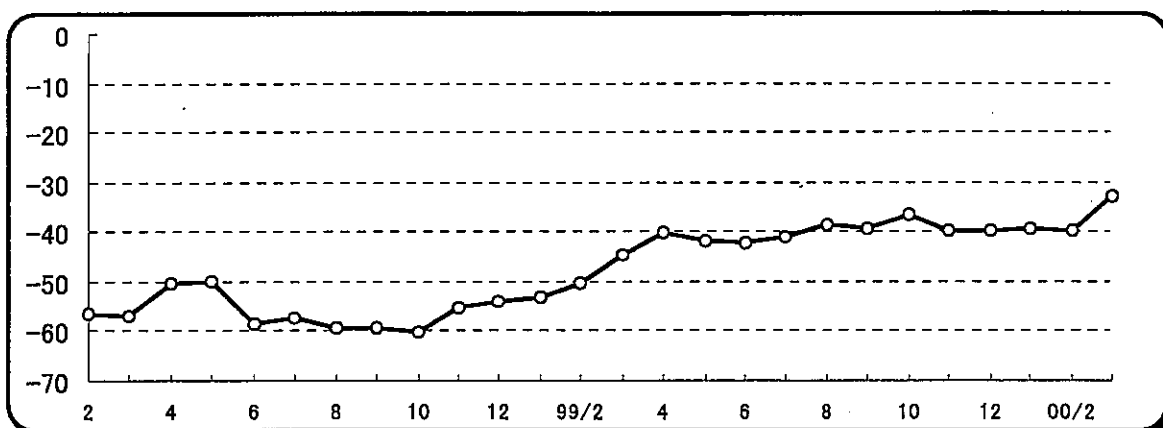
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小して、全業種合計の売上DIは▲32.9となった。
- 向こう3ヶ月(4月～6月)の先行き見通しは、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲19.8と現状より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年			12年			先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	▲ 36.8	▲ 39.8	▲ 40.0	▲ 39.4	▲ 39.9	▲ 32.9	▲ 19.8 (▲ 28.3)
建設	▲ 36.6	▲ 36.2	▲ 38.5	▲ 36.0	▲ 34.6	▲ 30.5	▲ 37.6 (▲ 33.4)
製造	▲ 32.2	▲ 31.9	▲ 29.5	▲ 31.5	▲ 30.8	▲ 24.4	▲ 12.9 (▲ 33.4)
卸売	▲ 34.9	▲ 41.6	▲ 34.9	▲ 37.1	▲ 45.9	▲ 36.5	▲ 15.9 (▲ 13.6)
小売	▲ 42.9	▲ 51.1	▲ 52.6	▲ 47.7	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 24.6 (▲ 25.8)
サービス	▲ 35.2	▲ 35.8	▲ 38.8	▲ 40.6	▲ 42.4	▲ 31.4	▲ 11.1 (▲ 28.3)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



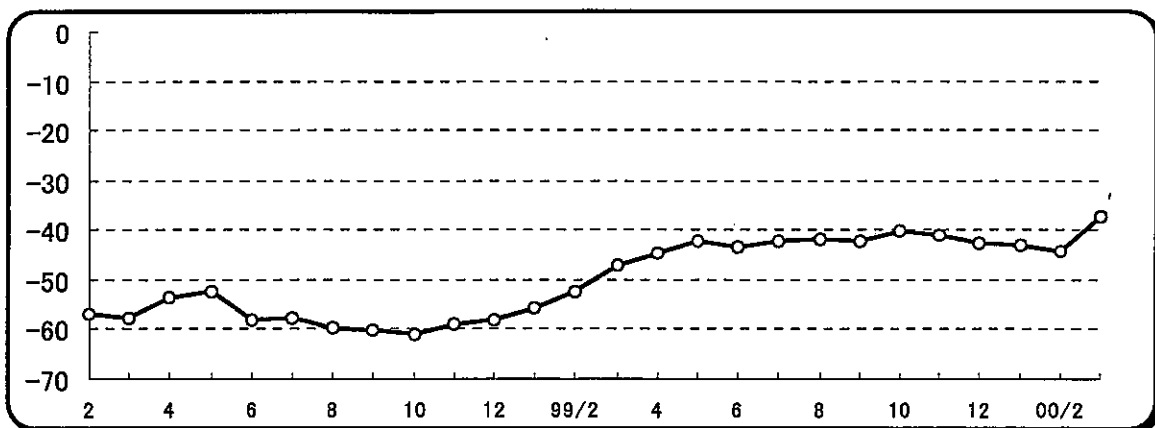
【採算の状況についての判断】

- 採算面では卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小し全業種合計の採算D Iは▲37.4となった。
- 向こう3ヶ月(4月～6月)の先行き見通しは、全業種合計の採算D I(今月比ベース)が▲24.7と現状より好転するとの見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	11年 10月	11月	12月	12年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲ 40.4	▲ 41.1	▲ 42.8	▲ 43.0	▲ 44.4	▲ 37.4	▲ 24.7 (▲ 33.0)
建設	▲ 44.7	▲ 42.6	▲ 42.9	▲ 47.0	▲ 47.3	▲ 43.9	▲ 40.6 (▲ 37.4)
製造	▲ 40.2	▲ 41.0	▲ 36.6	▲ 35.8	▲ 40.3	▲ 32.6	▲ 21.2 (▲ 38.1)
卸売	▲ 38.1	▲ 40.0	▲ 42.4	▲ 39.5	▲ 40.6	▲ 41.4	▲ 23.7 (▲ 21.6)
小売	▲ 42.0	▲ 44.5	▲ 50.3	▲ 48.6	▲ 48.4	▲ 38.9	▲ 27.0 (▲ 31.3)
サービス	▲ 36.6	▲ 36.6	▲ 40.0	▲ 42.5	▲ 43.6	▲ 34.7	▲ 15.1 (▲ 31.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	11年 10月	11月	12月	12年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 1.1	0.9	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 3.0 (▲ 1.8)
建設	4.7	1.9	1.8	▲ 1.0	0.4	▲ 2.5	▲ 5.0 (▲ 1.0)
製造	▲ 4.4	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 7.7 (▲ 4.5)
卸売	1.2	10.8	1.2	16.3	8.7	12.4	4.1 (1.7)
小売	0.0	1.7	4.7	5.1	2.1	2.0	1.6 (0.5)
サービス	▲ 4.7	▲ 5.9	▲ 7.1	▲ 2.8	▲ 2.7	▲ 5.8	▲ 5.3 (▲ 3.9)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設業、製造業、サービス業で上昇超感強まる。

【先行き見通しD I】建設業、卸売業、小売業で上昇超感強まる見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	11年 10月	11月	12月	12年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	▲ 14.8	▲ 13.9	▲ 15.1	▲ 14.6	▲ 16.0	▲ 13.2	▲ 10.2 (▲ 13.0)
建設	▲ 22.5	▲ 19.2	▲ 25.8	▲ 22.2	▲ 24.6	▲ 20.9	▲ 21.7 (▲ 20.9)
製造	▲ 18.1	▲ 21.2	▲ 19.6	▲ 16.9	▲ 19.5	▲ 14.2	▲ 9.0 (▲ 16.7)
卸売	▲ 12.4	▲ 11.4	▲ 9.6	▲ 13.5	▲ 14.5	▲ 17.6	▲ 14.8 (▲ 11.0)
小売	▲ 9.2	▲ 9.9	▲ 10.5	▲ 12.6	▲ 12.6	▲ 10.4	▲ 7.7 (▲ 9.0)
サービス	▲ 13.3	▲ 8.4	▲ 10.8	▲ 9.6	▲ 10.9	▲ 8.2	▲ 4.6 (▲ 10.3)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】卸売業以外の全業種で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】建設業以外の全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成12年3月の景気キーワード】

○ 先行き期待

業況の低迷や先行きの不透明感を訴える声は引き続き多いが、業況の底打ち感や先行きへの期待の声も寄せられている。建設業では「住宅着工は引き続き堅調に推移しており、企業の設備投資は下げ止まりを見せるなど業界全体の景気は緩やかに回復基調」（静岡）、「前年比売上増。年度末という特殊事情があるものの、最悪期は脱した」（佐世保）などの声が寄せられている。製造業では「主な納入先の自動車メーカーより発注の引合いが増えてきた。業況はやや回復傾向に転じたと思われる」（川崎・鉄素形材）、「注文は増えてきているし成約もできているが利益は厳しい。それでも少しずつ良くなっているし、今後は更に良くなると思われる」（相模原・金属加工機械）、「長期化する家具の需要低迷により総じて厳しい業況が続く中で、『環境を考えた家具』『高齢者向家具』など独自で活路を見出し確立してきている企業が見られ、やや明るい方向に向かっている兆しが感じられる」（静岡・家具）などの声が寄せられた。また、卸売業からは「依然として低価格志向が続いているが、少しは明るさが戻ってきた感じがする」（佐世保・繊維卸）、小売業からは「景気対策等の効果で明るさが感じられている様子」（都城・商店街）や「製造業が上向いてきているので、その影響が消費の方にもでてくることを期待」（伊那・大型店）、「競合店の出店で影響はあるものの、消費者の購買動向は好転していくと考えられる」（本渡・大型店）などの声が寄せられている。サービス業では、「地場産業の低迷が続いているものの、電気製品、紙パルプ、飲料が堅調であり、下げ止まり傾向が見えなくもない」（京都・運輸）の声を寄せられた。

○ 採算面の厳しさ

受注量減少の声が多いなか、「少しずつではあるが受注状況は上向きになりつつある」（伊那・電子部品）、「今年に入って対前年比受注が増加傾向に入っている」（大阪・繊維機械）、「猛暑が予想されており、エアコン関連部品の受注が好調」（大津・鉄素形材）など受注量増加の声も一部寄せられている。一方で、受注単価の下落などにより採算的には厳しいとの指摘もあり、「チラシは一時より発注増が続いているが、単価の下落により収支面では寄与なくかえって下落」（印刷・札幌）をはじめ「受注量はようやく増加傾向。しかし単価は依然低下」（北上・電気機器製造）、「仕事量は確保できたが儲けは少ない状況」（船橋・一般産業用機械）、「相変わらず単価は低いが、2月から3月にかけて受注量は増加した」（各務原・金属加工機械）、「若干だが受注増がみられ操業度もアップしてきているが、収益は低単価のためなかなかよくなる」（佐世保・金属加工機械）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年 1月	消費の低迷	受注単価の低下	企業間格差
2月	消費の低迷	採算の悪化	先行き不透明感
3月	先行き期待	採算面の厳しさ	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。受注量減少との声のほか、「請負件数は増えているが、細々とした仕事ばかりで単価は安い」、「工事量の増加はあるが採算は厳しい」など採算面の厳しさも指摘されている。その一方「住宅着工は引き続き堅調に推移しており、また、企業の設備投資は下げ止まりをみせるなど業界全体の景気は緩やかに回復基調」、「前年同月比売上増。年度末という特殊な状況にあったものの最悪期は脱した」といった声も寄せられている。
製 造	業況・採算・売上D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「猛暑が予想されており、エアコン関連部品の受注が好調」(鉄素形材)、「少しずつではあるが受注は上向き」(電子部品)、「今年に入って対前年比受注が増加傾向に入っている」(繊維機械)など受注増加の声が徐々に増えている。ただし、採算面は「売上は増加傾向に転じたが採算は厳しい」(食品)、「若干だが受注増が見られ操業度もアップしてきているが、収益は低単価のためなかなか良くなる」(金属加工機械)など低単価による厳しさの指摘も多い。
卸 売	採算D Iは前月水準に比べマイナス幅が拡大したが、業況・売上D Iはマイナス幅が縮小している。「卸売業全体が厳しい状況にあり、個人消費の回復がない限り先行きの見通しは暗い」(衣服・日用品)や「小売業界の価格競争激化の影響を受け採算面も悪化傾向」(食料・飲料)など厳しい業況を訴える声が多いものの、一部には「依然として消費者の低価格指向が続いているが少しは明るさが戻ってきた感じ」(繊維品)との見方もある。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。客数の減少や客単価の下落など消費低迷の指摘が多く寄せられており、先行きについても「企業の業績回復が遅れ、春闘も3年連続して低迷しており今後に期待が持てない」(大型店)との見方が寄せられている。その一方で「売上高は前年を下回ったが、基調は月を追うごとに改善傾向を示す」(大型店)、「製造業が上向いてきているので、その影響が消費の方にも出てくることを期待」(大型店)といった声も寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「長期不況により来客数の減少、購買単価の下落と厳しい状況が続いている」(飲食)といったコメントが引き続き多いが、一部からは「底打ち感があって好転の兆しあり」(飲食)、「ゴールデンウィークの曜日の並びが良く期待したい」(旅館)との声も寄せられている。



(参考)

【ブロック別概況】

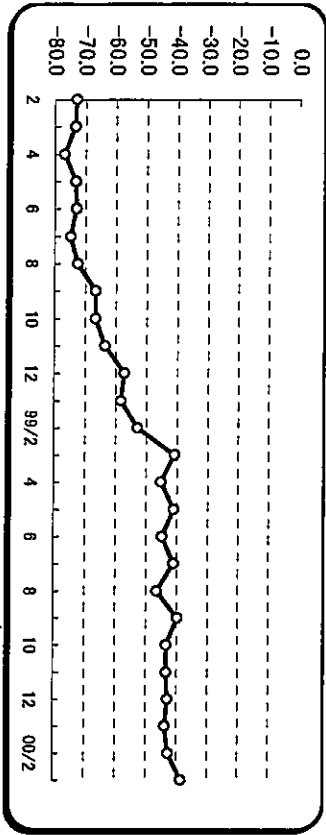
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっているが、全ブロックで前月水準を上回った。
- ブロック別の向こう3ヶ月（4月～6月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続き、マイナス水準。東北を除く全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

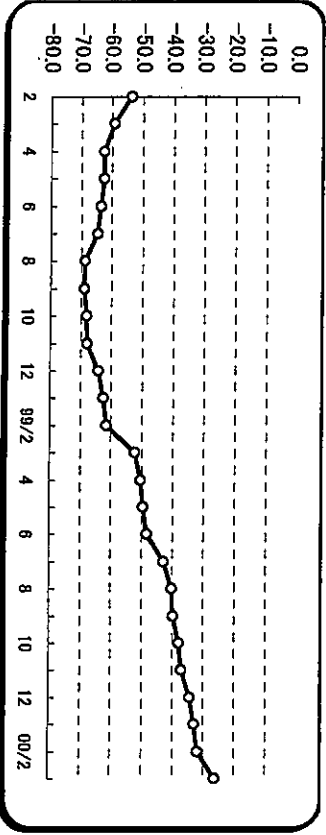
	11年 10月	11月	12月	12年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	▲ 42.7	▲ 42.7	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 24.6 (▲ 32.4)
北海道	▲ 23.5	▲ 27.3	▲ 23.6	▲ 41.0	▲ 28.2	▲ 27.5	▲ 21.4 (▲ 18.2)
東 北	▲ 34.0	▲ 36.9	▲ 44.3	▲ 38.0	▲ 35.2	▲ 24.2	▲ 24.2 (▲ 29.9)
北陸信越	▲ 44.8	▲ 33.0	▲ 32.4	▲ 42.7	▲ 35.6	▲ 31.7	▲ 17.5 (▲ 27.8)
関 東	▲ 46.2	▲ 44.8	▲ 47.2	▲ 41.3	▲ 43.2	▲ 37.6	▲ 19.8 (▲ 32.4)
東 海	▲ 55.2	▲ 49.7	▲ 54.5	▲ 48.0	▲ 44.2	▲ 43.3	▲ 33.5 (▲ 42.2)
近 畿	▲ 49.2	▲ 55.7	▲ 51.6	▲ 50.8	▲ 55.4	▲ 42.3	▲ 31.6 (▲ 34.3)
中 国	▲ 47.2	▲ 47.9	▲ 43.0	▲ 48.3	▲ 46.7	▲ 39.8	▲ 29.1 (▲ 39.9)
四 国	▲ 48.6	▲ 51.3	▲ 48.7	▲ 44.1	▲ 60.0	▲ 44.4	▲ 23.1 (▲ 33.0)
九 州	▲ 24.7	▲ 32.0	▲ 35.7	▲ 34.7	▲ 33.7	▲ 24.8	▲ 24.3 (▲ 31.3)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

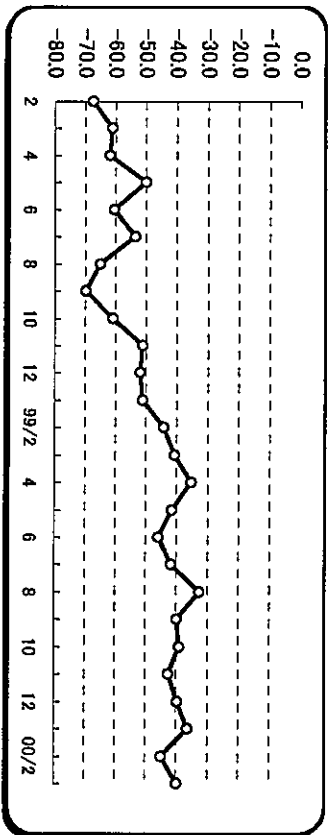
建設業



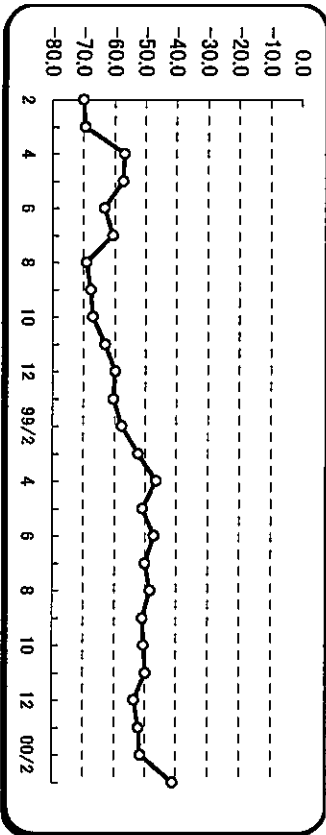
製造業



卸売業



小売業



サービス業

